

令和3年度第1回（仮称）新大田区生涯学習推進計画策定会議 議事要旨

日時 令和3年6月21日（月）午後2時から午後4時まで

場所 池上図書館 多目的室

出席者 名和田委員（会長）、遠山委員（副会長）、雨笠委員、笈川委員、大島委員、河合委員、倉持委員、白鳥委員、千葉委員、松野委員、和田委員（役職・50音順）

※柏原委員、村上委員欠席

1 開会

2 委員の委嘱

【事務局】

- ・ 委嘱状の交付は、机上配布とする。
- ・ 委嘱の任期は、令和4年3月31日までとする。

3 地域力推進部長挨拶

【地域力推進部長】

- ・ 新たな計画によって大田区に住んでいれば学びのチャンスが得られる、といった環境を作ることで、一人ひとりが自分らしい生きがいなどを追求しながら、より地域が活性化され魅力ある大田区を作っていけるような、大田区ならではの先進的な計画としてまいりたい。
- ・ 委員の皆様には、様々な知見から御意見をいただき、より良い計画策定となるようお願いし、御挨拶とさせていただきます。

4 会長、副会長の選出

【事務局】

- ・ （仮称）新大田区生涯学習推進計画策定会議設置要綱第5条に基づき、会長及び副会長を選出する。どなたか会長の御推薦はあるか。

【委員】

- ・ 会長には（仮称）大田区地域コミュニティセンター検討会会長を務められた名和田委員を推薦したい。

【事務局】

- ・ 名和田委員を推薦いただいた。委員の皆さま、いかがか。
(拍手)
- ・ 名和田委員に会長をお願いする。名和田会長から御挨拶をお願いする。
(名和田会長御挨拶)
- ・ 次に副会長を選出する。どなたか、副会長の御推薦はあるか。

【委員】

- ・ 副会長には、大田区青少年問題協議会委員など様々な委員を務めている遠山委員を推薦したい。

【事務局】

- ・ 遠山委員を推薦いただいた。委員の皆さま、いかがか。
(拍手)
- ・ 遠山委員に副会長をお願いする。遠山副会長から御挨拶をお願いする。
(遠山副会長御挨拶)
- ・ 会長、副会長の席の移動をお願いする。
- ・ 以後の進行は、会長をお願いする。

【会長】

- ・ 策定会議の公開について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】

- ・ 策定会議設置要綱第7条に「策定会議は、原則として公開する。ただし、1 公開することにより公正かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがあると認められる場合、2 特定の者に不当な利益又は不利益をもたらすおそれがあると認められる場合、3 議案に個人情報が含まれている場合は、会長は会議の全部又は一部を非公開とすることができる」とある。本日の会議内容には、それらに該当する内容は入っていないと認識している。
- ・ 会議結果については、議事要旨を作成し、各委員に確認のうえ、区ホームページに公開する。

【会長】

- ・ 策定会議の公開について、意見はあるか。公開してよいか。
(異議の声なし)
- ・ 本日の会議は公開とする。
- ・ 事務局に傍聴人の方々の入場案内をお願いする。

5 議題

(1) (仮称) 新大田区生涯学習推進計画の概要について

【会長】

- ・ 事務局から説明をお願いする。

【事務局】

- ・ (資料3に基づき説明)

【会長】

- ・ 事務局からの説明について、御意見、御質問があれば発言してほしい。
(発言なし)

(2) これまでの生涯学習事業に係る課題について

【会長】

- ・ これまでの生涯学習に係る課題ということで、事務局から説明をお願いする。

【事務局】

- ・ (資料4、5に基づき説明)

【会長】

- ・ 事務局からの説明について、趣旨を確認するような質問があればお願いしたい。

【委員】

- ・ 資料4に「施設が貸館化している」とあったが、文化センターの管轄が社会教育課から移管されたときに、常駐の職員がいなくなってしまった。常駐の職員が2～3人いたときは、その人達とのふれ合いの中で(団体が)育ったり、企画・講座についても協力してもらったりした。
- ・ 今の地域力推進課は、普通の利用者からすると遠いかもしれない。そこを埋める人達がいれば良いと感じている。

- ・ 40代、50代からサークル活動をしてきた方が40年、45年とたつて、80代、90代の方が増えてきている。高齢の方にとっては、趣味やおしゃべりができる公共の場所が非常に大事だと感じている。

【会長】

- ・ 今の御発言、まさに議題6の全体を通じた意見交換で扱われるべきすばらしい着眼点であった。
- ・ 事務局から、この発言に関連して、この資料を作成した意図や背景などについて簡単に回答をお願いしたい。

【事務局】

- ・ 委員から指摘いただいたように、文化センターにはかつては社会教育指導員が2名ずつ配置されていた。団体の相談及び社会教育的見地からの助言が得られて、イベントなどを通じて地域とのつながりもあった。
- ・ 現在は、そういったつながりが創出されづらい状況となっており、当方としても課題ととらえている。

【会長】

- ・ 非常に重要な論点について、発言したい方がいらっしゃると思うが、この資料についての質問があればお願いしたい。

【委員】

- ・ 資料4について、マーカーがある部分については、どのような意図があるか。

【事務局】

- ・ 資料を説明させていただくにあたり、ポイントを絞るためにマーカーをした。

【会長】

- ・ とりわけ重要な論点であるということで、マーカーしてあるが、それ以外についても、議論のなかで検討していきたい。

【委員】

- ・ (資料4)の課題をすべて協議していたら、1か月かかるかもしれない。簡潔に議論するための工夫ということで、賛成である。

【会長】

- ・ 資料4、5について、他に御意見はあるか。

(意見・質問なし)

(3) 計画策定の視点について

【会長】

- ・ 次に議題3、計画策定の視点について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ (資料6に基づき説明)

【会長】

- ・ 資料6について説明いただいた。先ほどの課題の洗い出しを受けて、計画策定にあたっての基本的な視点を事務局案として示されたものと思う。
- ・ これについて、質問はあるか。

【委員】

- ・ 視点について、案となっているが、この会議体で承認していくものなのか。

【事務局】

- ・ 今回の計画策定において、このような視点を大事にしていきたいという、現段階ではあくまでも事務局としての提案である。
- ・ これから、意見交換をいただくなかで、重要な視点を追加いただいたり、修正いただいたりするための案として提示した。

【会長】

- ・ この後の全体を通じた意見交換で、視点についても議論をする時間を取りたい。
- ・ 他に質問はあるか。

(意見・質問なし)

(4) 基礎調査について

【会長】

- ・ 議題4の基礎調査について、説明をお願いしたい。

【事務局】

- ・ (資料7基礎調査項目(案)に基づき説明)

【会長】

- ・区民向け、団体向けの調査票について説明があった。御質問、御意見はあるか。

【委員】

- ・非常に丁寧に設定されていると思う。ヒアリング調査について、ヒアリングは何題行うか、目的は何かということについて教えてほしい。

【事務局】

- ・ヒアリング調査は、アンケート調査回収後8月後半から9月を予定している。アンケート調査では、把握できない団体の現状や課題を拾い上げるような項目を想定している。具体的な項目については、今後事務局内で協議のうえ、決定していく。

【委員】

- ・社会教育関係団体の登録数が、およそ1,800だと説明があったが、30年ほど前は3,000、20年ほど前では2,000ほどであったと記憶している。その頃から大幅に減っているものと思っていたが、あまり数字が変わっていない。
- ・こういう時代の中でも学習をしていこうという方々が多いのは、大田区の財産であり、貴重だと思う。
- ・計画策定の視点のなかでも、地域力をどう作っていくか、学習と活動の循環という話があったので、学習したものを地域に還元していくうえで、地域にどのようなプレーヤーの方々がいるのか、どのような点をこれから伸ばしておけばよいのか、明らかになっていけばよいと感じた。

【会長】

- ・委員からお話があった社会教育関係団体が少しずつ減っていることについて事務局から何かあるか。

【事務局】

- ・ここ10年は、2,000団体前後で推移している。

【委員】

- ・田園調布の小・中学校では、学校が危機管理の講座を開催するなどしている。
- ・社会教育団体の数がおよそ1,800と説明があったが、ここに登録せずに活

動している方は多くいるのではないかと感じている。

【会長】

- ・ 生涯学習の部署に登録されていなくても、施設を使っているグループは
かなりあるということか。事務局としてどの程度把握しているか。

【事務局】

- ・ 社会教育関係団体に登録せずに活動している団体やグループの全体数は
把握していない。

【委員】

- ・ アンケートは8月から9月に集計となっているが、次回策定会議の10月
までに結果はすべて出るのか。

【事務局】

- ・ その予定である。

【会長】

- ・ 各委員からアンケートの設問について意見がある場合、いつ頃までに言
えば間に合うのか。

【事務局】

- ・ アンケート項目について意見をいただくタイミングとしては、本日から
1週間程度であれば、対応が可能。
- ・ 10月の会議で結果を提示することとなっているが、速報版として単純集
計だけでも示して、御意見をいただくことは可能。

【委員】

- ・ アンケートは、紙面のみの調査なのか。デジタル的な調査方法は対応し
ているのか。

【事務局】

- ・ 区民については、紙媒体とウェブを併用する。団体については、紙媒体
のみで対応する。

【会長】

- ・ 10月に集計結果が示されたときに、いろいろと議論していきたい。
- ・ 2001年と2020年に関与した横浜市の生涯学習支援センターの調査では、
生涯学習支援センターに登録している団体の4割が自分達は生涯学習団

体ではないと言及していた。

- ・ そのような団体と生涯学習団体と回答した団体の間には、ほとんどの設問について、統計上有意な回答傾向の差がみられた。
- ・ 昨年（2020年）の調査では、この20年間の間に新しくできたと回答した団体が全体の半分以上を占めていた。そのような入れ替わりがあるということも、調査を実施してわかってきた。
- ・ 第2回の策定会議で、調査結果について活発な議論をお願いしたい。
- ・ 他に質問はあるか。

（意見・質問なし）

6 全体を通じた意見交換

【会長】

- ・ 生涯学習推進計画について、全般的な意見交換に移る。これまでの資料を御覧になりながら、御自由に発言いただきたい。

【委員】

- ・ 社会教育関係団体に登録することで優先予約や利用料の減免があるため、文化センターが非常に活発に活用されている。一般区民も借りられる余地があるので、バランスが取れているという印象を持っている。
- ・ 資料4「生涯学習事業に係る課題」に「区内人材・団体コーディネート機能の希薄化」、「文化センターごとに困りごとを聞いてくれた職員がいた」とあったが、かつては行政職員も一緒に活動を考える機会があった。
- ・ 今後行政としてどのように考えているのか、お聞きしたい。

【会長】

- ・ 事務局への問いかけがあったので、事務局から回答をお願いしたい。

【事務局】

- ・ 社会教育関係団体については、施設の予約が一般区民よりも前に行える。
- ・ 施設の稼働率については、センターごとに差がある他、部屋の種類によって稼働率が低いものがある。
- ・ 平日の日中は、所長以下数名の区の職員がいて、夜間、土日は委託となっている。文化センターの所長や職員に全くコーディネート機能がないというわけではなく、相談には乗っている。しかし、専門的見地からのアドバ

イスができていない。

- ・ 本庁舎にいる6名の社会教育指導員が、出張してコーディネート機能として役に立てればと考えている。
- ・ 今後、計画策定の中で議論いただきたい。

【地域力推進部長】

- ・ 補足だが、社会教育関係団体だけではなくて、広く区民の学習ニーズに対して、適切な学習の場を案内・提供することが難しいような状況がある。
- ・ 区が直営で、そのメニューを提供するだけでなく、区内大学や民間企業等と連携しながら提供しなければならない。そのためにも、生涯学習を体系化し、見える化をしたうえで、団体の育成、裾野を広げて底上げをする部分が課題だと感じている。計画の策定の目的として、それらの課題を整理して計画としてまとめるという目的もあるので、今後議論していきたい。

【委員】

- ・ 社会教育関係団体が文化センターで区民向けに1日公開講座を実施していたことがあった。ただ、そういう文化センターは限られており、あまり広がらなかったのが残念だ。
- ・ 学んだり趣味を楽しんだりすることはとても貴重だが、地域の活性化を考えると、身に着けたことを活かして、一般区民向けの講座や、自治会や学校、介護施設で講師としてボランティアで出向くことによって地域が活性化することはとても重要で、その視点は、欠かせないものだと考える。
- ・ 区民向けのアンケート調査に、生涯学習の定義というのがあるが、その中に非常にシンプルな自学、例えば本を読んだりというようなことが含まれていない。生涯学習というものを考えたときに、とてもシンプルだが、まず自分の関心に向き合うというようなところがあってもよいと思う。
- ・ アンケート調査の設定の意図を知りたい。

【事務局】

- ・ 定義には、自学、読書も含めている認識であったが、表現しきれていなかった。その点を具体的に入れていきたい。

【委員】

- ・ 団体へのヒアリングは、非常に興味深いと思った。一方でやってみたいと思っているが、まだ機会に恵まれない、なかなか一步を踏み出せないという方にとって、生涯学習とどのような出会いができるのか、そういう方にとっても入り口になる生涯学習像というか、そういったものがこの計画の狙いとするものになったらよいと考えている。
- ・ アンケート調査の中に、そういう部分が見受けられず、すでに出会っている方に向けたものが中心となっている印象を受けた。これから出会うための仕掛けのようなものについて該当する部分があれば、教えてほしい。

【会長】

- ・ 事務局として、この生涯学習推進計画を作るときに、まだ生涯学習を全然していない、そこに加わっていない人についてどういうことを考えているのか、いかがか。

【地域力推進部長】

- ・ 今回の生涯学習計画策定の目的の一つに学びの裾野を広げるということがある。アンケート調査票上に表現ができていないかもしれないが、資料6「計画策定の視点」の「個人の学びを支える」というところに表現されているが、学びたいことが明確な人だけでなく、何を始めてよいかわからない人に対しても相談に乗ることができるような機能を拡充したい。
- ・ 生涯学習センターはスタートしているが、まだ十分機能しておらず、その在り方を整理しながら、学ぶことの重要性や学ぶこと自体が豊かさにつながるような、そういう視点は忘れずにいきたい。

【委員】

- ・ 生涯学習担当の職員とボランティアが「こういうことをやりたいのによくわからない」、「何か紹介してほしい」という相談に対応している。
- ・ 本庁舎の1階や図書館等で定期的に行っている生涯学習相談会では、相談に来た人に個別で、資料やチラシの案内や、団体紹介をしている。非常に重要だと思うので、さらに続けてほしい。

【事務局】

- ・ 生涯学習に関する情報発信は、区報や区ホームページで実施しているが、個別に関わる部分が必要と考えている。地域の文化センターや図書館に向いて相談会を行ったり、区役所に別の用事で来た方の生涯学習に関する相談に対応したり、ということを実施している。
- ・ 生涯学習相談会は、社会教育の職員だけではなく、区民の相談員に協力いただき、区民目線で相談に応じ、ヒアリングをしてニーズを聞き、その方に合った団体やイベントを紹介している。これがきっかけで、サークルの会員につながるという結果も出ている。

【会長】

- ・ 重要な発言が続いているが、まだ発言されていない方、いかがか。

【委員】

- ・ 大田区ならではの計画を作ることを目的にしているということであると、アンケートの中にも、大田区らしい、その目的に見合ったアンケートにする必要があると学んだ。
- ・ そういう意味で言うと、先ほど計画策定の視点の中で、「国際理解や多世代交流に資する生涯学習の機会」というところにポイントが当てられていると聞いた。
- ・ 今は、広く浅く、どんな生涯学習を行っているか、これからどういうことを行いたいかということ、例えば例示のところ、社会問題に関するものであれば、社会・自治・国際環境問題などとか、地域社会に関するものであれば、地域の歴史・自然・文化などというような形で置いているが、こういった例示も、回答する際のイメージづくりには大変影響を与えるので、私たちが今回策定にあたって、やっていきたい部分を例示に置く、置かないということも、少し回答の選択をする際に影響を与えると感じた。
- ・ 例えば、問5に国際交流とあるが、国際交流というと国と国との交流をイメージしがちだが、国際理解というと、日本の中にも外国にルーツを持つお子さんたちがいるというようなことも課題で、こういった表現の違いについても細かいことだが、検討したほうがよいと感じた。
- ・ これからどう生かしていきたいかというところは、計画策定の視点と絡め

て、選択肢に織り込むという可能性もあると感じた。

- ・ 先ほど、大田区ならではの特徴として、社会教育関係団体が非常に多くて活発な取り組みをしていると聞いた。団体向けのアンケートで、コロナ禍の活動状況で、困りごと、課題について尋ねているが、こういうときだからこそ工夫していたり、新たに取り組み始めたりというような方々もいると思うので、ヒアリングで、どんな工夫をしているかを聞くことで、大田区ならではの特徴や他の団体が学ぶ先進性のような、得られることが多いのではないかと感じた。
- ・ 計画策定の視点というのは、委員として今後計画に対して意見を言うときに、こういったことに目を配りながら意見を聞いてほしいというものとして受け止めている。視点の中で、「国際理解・多世代交流に資する生涯学習の機会を提供する」とあるが、「提供する」となると、どうしても区が講座やイベントを企画するということになると思う。それはそれでとても大事だが、今回いろいろな団体との連携、協働や各施設の役割とか、機能の整理も含まれていて、諸計画との関連も示されている。そう考えると、講座、学習の機会の提供だけではなくて、そういう場の整備や仕組み作りなど様々なことが含まれるので、「提供」ということだけではないと感じた。
- ・ 資料5「大田区の生涯学習関連施設等配置図」を見ると、非常にたくさんの生涯学習の施設、関連施設があり、豊かな環境にあると思う一方で、課題も多くあるということを知った。
- ・ 課題を知ることはとても大事で、それをどう解決するかということで計画を作るのは大事だと思うが、大田区ならではの、自慢できる先進的な計画を作ろうとした場合、どういうところが大田区の特徴なのかということをもっと知りたいと感じた。それらを共有することで、他自治体と同じような計画にならず、大田区ならではの個性、魅力が出るのではないかと感じる。
- ・ 次回は、調査結果について協議するので、大田区の特徴や魅力についても情報共有いただき、会議の中で議論していきたいと感じた。

【事務局】

- ・ 本日の資料では、大田区の特徴を紹介できていなかった。施設の面では、

分散されていることが特徴であり、老朽化して、大きくはないが、分散されていることは高齢化社会ではメリットなのではないかと思っている。大田区の特徴や施設面の強みを活かしていけたらよいと考えている。

- ・ 次回の会議の際、大田区の特徴を紹介する資料を準備したい。

【会長】

- ・ 他の委員に発言をお願いしたい。いかがか。

【委員】

- ・ 蒲田周辺に文化センターがないのが残念。行政がどう考えているか知りたい。

【事務局】

- ・ 蒲田地区には、文化センターとしては六郷文化センターのみである。
- ・ かつて区民センターがあった場所に、複合施設ができる予定。

【委員】

- ・ 区民センターがあるところには、文化センターがない。社会教育関係団体は、文化センターの使用について優先や減免があるが、区民センターにはない。それも、生涯学習の課題としてあると思う。

【事務局】

- ・ 区民センターにも一部減免がある。

【会長】

- ・ 他に御意見あるか。

【委員】

- ・ 大田区には文化センターの他にも、蒲田地区にある区民プラザやアプリコといった施設があり、そこでは本格的なコンサートや落語をやったり、音楽スタジオで練習して発表のための準備をしたりするなどの文化活動が展開され、そういう形の活動も大きい意味で学びの一つだと思っている。
- ・ 文化振興協会が発行しているアートメニューという広報紙では、音楽を聴く楽しみ、区内にある龍子記念館や尾崎士郎記念館などで、美術や文学など専門的でレベルの高い様々なものに触れる機会を紹介し、関心を持ってもらい、そこから学びにつなげようとしている。
- ・ 社会教育関係団体の活動だけが社会教育や生涯学習ということではなく、

色々な入り口があり、その多様性を大田区がどう作っていくかが非常に重要であり、そういう意味での広がりや深さをこの計画の中で作っていきたいと考えている。

【会長】

- ・ 他に御意見はいかがか。

【委員】

- ・ 資料4「これまでの生涯学習事業に係る課題」に戻るが、生涯学習の体系化という話について、もう少し事務局から教えてもらいたい。
- ・ 生涯学習という言葉は、実際に取り組んでいる人はあまり使わない。上から、これが生涯学習というように使うような言葉で、実は使いにくい言葉だと感じている。体系化という点で見ると、生涯学習の担当課からみれば、区内のこれもあれも、みんな生涯学習なのだと思うが、やっている側ではそう呼ばないので、体系化されていないということになるのではないかと考えている。
- ・ 事務局として生涯学習ととらえている事業についてリスト化してみると、事業を担当している部署と共有できるし、生涯学習と認識してやってもらうだけで、担当部署は違ったとしても、まさに生涯学習を区全体で覆っているという状態に近づくのではないかと考えている。
- ・ 担当課が感じている、届いていない先というのをリスト化し、委員に共有してもらえれば、そこも入れてほしいとか議論できると思うので、お願いしたい。

【事務局】

- ・ 今後庁内においても施策について議論していくが、他の部局が生涯学習と認識していないことについても生涯学習であると認識してもらうことは、当方の願いでもあるので、リスト化していきたい。

【会長】

- ・ 先ほど自分が関与した調査の紹介をしたが、生涯学習でない団体の方が、今後、他団体や専門機関と連携して研修などを行いたいという意欲が強い。現に学んでいない団体のほうが、学びたいと思っている。
- ・ ここに学びと活動の循環が一部見えるというように分析している。例えば

福祉の団体とか、活動のために学びたいと思っているということ、その団体は生涯学習とは意識していないと思うが、それを生涯学習という立場でとらえ返して、何か有効な支援ができないか考えるのは大事だと思う。

- ・ 第三者的にみると、ある一定の分野から、全てはそれだということにとらえてみて、連携をしていくというのは大事なことだと思っている。事務局でも、ぜひ生涯学習とは自覚していない取組について、生涯学習の所管部署としてできることを考えるとといった作業をやってみてほしい。

【委員】

- ・ 資料6「計画策定の視点（案）」に、生涯学習に含まれる学校教育における学習については、「おおた教育ビジョン」に委ねるとある。令和元年度からの第三期大田区教育振興基本計画として策定され、今年3年目を迎えるが、その中に子供たちが未来社会に創造的に生きる力を育むといったテーマがある。まさに、子供たちが大きくなって、これからも生涯学習をしていこうという気持ちを大事にしていく、こういう機会なのではないかと考えている。
- ・ 学校でも、学習するにあたって、わからない、できない、自信がない、自己肯定感が低いという、子供たちが多くいる。そうした子供たちが、生涯を通して、自分たちで何かを学び取りたい、得るものがほしいという子供になるように育てていきたいと学校では考えている。
- ・ 大田区では、未来教室という不登校支援の学校に対し、文部科学省から認可が下りて、今年度から開始した。子供たちが学校に来られるようにするため、その学校で学びの機会を得られるようにすることが大事になっている。大田区が全国でも先進的な取り組みに腰を上げたという状況であり、子供たちが健全に育つために、学びたいという気持ち、大人になっても学び続けることができる環境がとても大事だと考える。
- ・ 学校は、生涯学習で学び得たもの、それを実証できる場でもあると考えている。学校では、出前授業として社会の外部団体に学校に来て授業をしてもらっている。または、大学の演劇サークル等が自分たちの成果を見せる場を提供するなど、学校が生涯学習で得たものの結果を検証していく参画の場になればよいと感じている。

【会長】

- ・ 生涯学習の全体の中で、この推進計画は狭いほうの生涯学習を扱うが、学校教育と生涯学習の関係について、重要な御指摘をいただいた。他にないようであれば、最後に副会長にまとめていただきたい。

【副会長】

- ・ 議事進行をされた会長はじめ、各委員がそれぞれの御経験、知見から非常に有意義な御意見が活発に交わされていたと思う。
- ・ アンケートの自由記述の中の言葉の多さや頻度について、今はA Iで分析することができ、ここに本当の答えが出てくると思っている。自由記述をなるべく多く書いていただけるようにしたほうが良い。
- ・ 区民の皆さまが、この自由記述の中に、どこまで書いていただけるかによって、大田区のオリジナルの答えのヒントになるのではないかと思っている。
- ・ 現在は、人口も生活も流動化しているので、大田区ならではの答えを出すのが本当に大変だと思う。次回の策定会議で、大田区の独自性がテーマとなるが、地場の産業の方々や、会長はじめ学識経験豊かな方々の御意見をいただいていくとともに、せっかく調査をするのであれば自由記述の分析も重要だと考えている。
- ・ 生涯学習というミクロの視点で掘っていくだけではなく、マクロ的な視点で、他部局の委員会などと横断的に進めたほうが良い。
- ・ なぜ地域力推進課に生涯学習担当があるかということから考えると、コミュニティやつながりがなくなり、社会が個別化、流動化している。生涯学習をファクターとして、いかにして横とつながりを持つか、自己肯定感を上げるか、学びの場を設けて、つながりを持てる社会にしていくか、この会議で検討していきたい。

【会長】

- ・ アンケートにおける自由意見については、色々な分析の手法があるので、事務局で検討してもらいたい。
- ・ コミュニティ研究の中で特に地域福祉の分野をみており、国際比較でドイツを研究している。ドイツでは地域のまちづくりでは、事務所に社会教育

を担当する職員とソーシャルワーカーがいて、両者はだいたい同じ動きをしている。地域に出てコーディネートしていく、声をかけていく、という動き方をしている。重なっているのは、ごく自然のことだし、入り口が福祉であっても生涯学習であっても結局同じことになるだろうと感じている。

- ・ 本日の議論の最初のほうで、文化センターの職員の動き方が話題になったが、社会教育の専門性という問題なのだろうと認識した。いつも利用する人ばかりではなく、まだ活動していない人にもアプローチしていくようなコーディネートする人をどうするか、事務局が課題としていることがわかった。
- ・ まだ活動していない人が、ふらっと訪れて、相談とも言えないような形で実は相談を受ける。この辺が社会教育の専門性ではないかと。最近コミュニティの拠点の運営に携わっているが、何の目的もなくふらっと訪れた人と井戸端会議の中で、実は重要なコーディネートが行われているということがある。
- ・ このような相談ともつかないような相談に対応して、地域のつながりを作っていく、こういう人たちを養成する局面が生涯学習であるわけで、非常に重要だと思っている。
- ・ 学びと活動の循環、学んだことをどう生かしていくのか、地域の中で活かしていくのかということだが、先ほど委員から学校の出前授業の話があったように、色々な場所で学んだことを活かせる場があるはずで、そのために生涯学習以外の分野の部署と連携し、つないでいくことが必要だと考える。
- ・ 現に学んでいる団体よりも、生涯学習と認識していない団体のほうが、研修したいとか学びたいという意欲が強い。そういうニーズに応える形で展開をしていくとよいと思う。
- ・ 有意義な意見交換を行うことができた。
- ・ 特に他に御発言がなければ、本日の議事を終了する。進行を事務局に戻す。

【事務局】

- ・ 欠席した委員からいただいた御意見を紹介する。
- ・ 「大田区の各種計画から生涯学習に関連する事業を体系化することに意義

を感じる。学校教育とのつながりをどう考えていくか、学校教育をどのように生涯学習と関係させるのかということを考えていきたい。区民の視点で見ていきたい。」

- ・ 本日皆さまからいただいた御意見をふまえて、新たな生涯学習推進計画を策定していきたい。
- ・ 傍聴人の皆さま、お帰りの際に、資料の返却をお願いしたい。

(傍聴人退出)

【事務局】

- ・ 第2回策定会議は、10月を予定している。日時・場所については、事務局から連絡する。
- ・ 追加の御意見は、事務局に送っていただきたい。
- ・ 以上をもって、閉会とする。

以上